



仏様ほとけさまにあげる線香せんこうは、どんな意味いみがあるの

心こころを洗い、清あらめる

あなたのおうちには、仏ぶつだんがありますか。仏ぶつだんにご先祖様せんぞさまをまつてあると、毎日まいにち、小さな器ちいに入うつわれたご飯いをあげたり、線香せんこうをあげたりしますね。

線香せんこうは、ビャクダン、チョウジ、ジンコウなどの香料こうりょうの粉こなを、松まつやになどで練ねり固かため、細ほそい線せんのようにしたものです。この線香せんこうに火ひをつけ、仏ぶつだんに供そなえます。

香こうは、もともと、インドなどの熱帯地方ねったいちほうに発達はったつし、体からだのにおいを消けすことが、おもな目的もくてきでした。それが、仏教ぶつぎょうと結びつき、心こころを洗い、清あらめるはたらきがあるといわれ、線香せんこうが使つかわれるようになったのです。それまでは、ジンコウなどの粉こなを焼やいて、仏前ぶつぜんに供そなえました。

線香せんこうが日本つたに伝えられたのは、仏教ぶつぎょうが伝えられたよりずっと後の、江戸時代あと えどじだいの初めごろのことです。

線香せんこうは、そう式しきなどの法事ほうじのときに、香炉こうろという入れ物いの灰もの はいに立てて、くゆらせるようにします。また、死しんだ人のまくら元もとに立てるときは、死しんだ人の霊れいが迷まよわないようにと、線香せんこうを1本ほんだけ立てたりします。

焼香しょうこうというしきたり

仏様ほとけさまをおがんだりするときや、おそう式しきのとき、死しんだ人ひとに対して、香こうをたいて、おがむことを焼香しょうこうといひます。

線香せんこうをあげて、焼香しょうこうする場合ばあいの作法さほうは、宗派しゅうはによって、ちがいます。臨済宗りんざいしゅうは、線香せんこうをながいまま1本ほんあげ、真言宗しんごんしゅうは、線香せんこうをはなして3本ほんあげ、浄土真宗じょうどしんしゅうは、線香せんこうを折おって、ねかせ、日蓮宗にちれんしゅうは、折おらずにねかせてあげます。(監修・青木 国夫)

